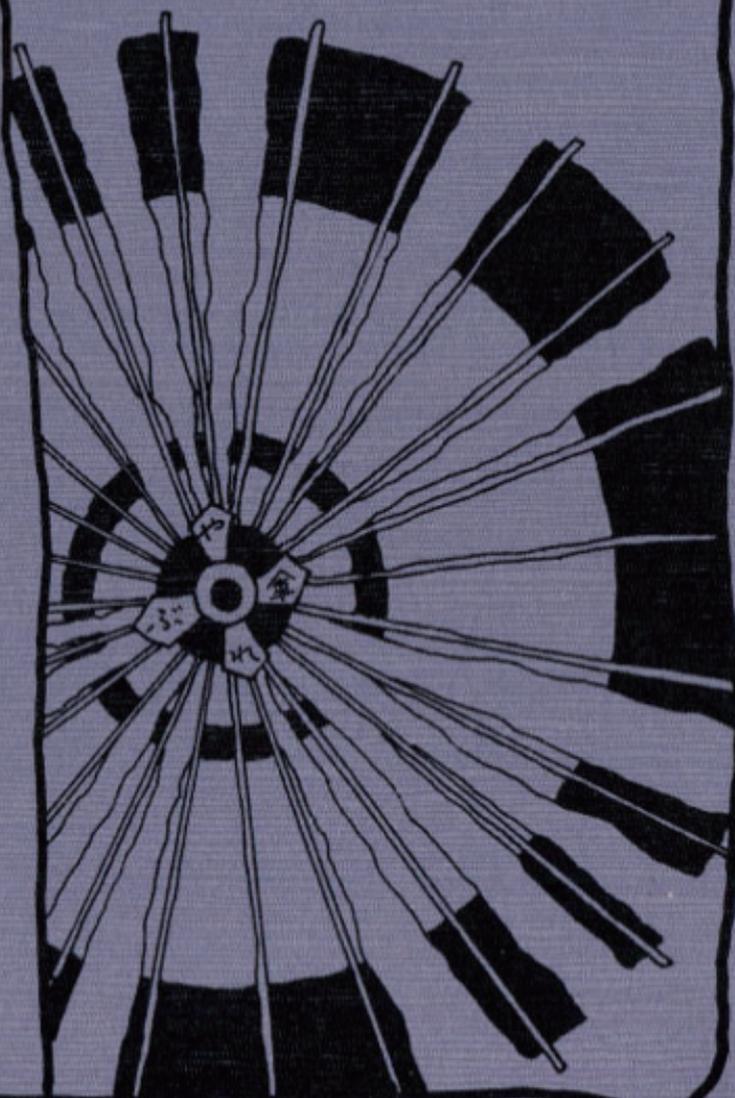


やぶれ傘



八十四号

二〇一五年六月

菜飯食ふのに二階までとほされて 根橋宏次

青梅の詰まつて固き袋かな きくちきみえ

蝶々に思はずついてゆくことに 大島英昭

緑陰の裸体の塑像午後に入る 藤井美晴

信号の赤に神輿の後じさり 廣瀬雅男

肩越しに背伸びして見る賀茂祭 丑久保 勲

鳥交るぼかんと昼の月ありて 青谷小枝

恋猫の深傷ふかの手当てしたりけり 瀬島洒望

客船の船旗はためく鳥ぐもり 渡邊孝彦

燕来る千住大橋高架下 安藤久美子

渡し船霞のなかへ入りにけり 白石正躬

はりぼての白象のゐる花祭り 有賀昌子

ざく切りのキャベツ串揚げ待つ間 小山陽子

日の暮れの溪蓀の揺ることしきり 秋山信行

水底に日の差し来たる水馬 國保八江

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選 ぶ れ や

春昼や刷毛で掘り出す古代土器 菊池洋子

砥ぎし鎌日にかさし見る薄暑かな 久世孝雄

街中を回送バスの行く薄暑 天野美登里

つんつんとみんな空むく松の花 松村光典

スカートの身の軽きかな更衣 野口朝世

退院日桜吹雪の駐車場 萩原久代

麵啜るスーツの男花の下 松本善一

大方の菜園にじやがいもの花 村田 武

葱坊主これより先は比企の里 浅嶋 肇

内側で蓋を引張るさざえかな 大野芳久

菜の花のおひたし塩をひとつまみ 岡田香緒里

放たれて目高は池の水底へ 奥田温子

ベンチにて葉桜の風分かちあふ 上林富子

初夏のちよつと豪華なランチかな 忽那みさ子

柳絮とぶゆるき流れの岸にゐて 齋藤朋子

蠅叩き

大崎紀夫

岩場より硫黄のにほひ母子草
春昼の港に空のドラム缶
四月一日地面より足が生え
給食の時間さくらは咲きみちて
たんぽぽに影しつかりとあつて昼

蝌蚪の国へと長靴がばしやと入る
鬪牛の鼻先にある蠅のこゑ
金魚玉より覗かれてゐるばかり
鶉籠より鶉が顔みせてゐる昼間
鉄棒の棒やや曲り雲の峰
蠅叩きやや凹みたる方が裏
夏の日がかつとおでこに当たる昼

菜 飯

根橋宏次

連翹に軽トラツクの来て止まる
エイプリルフルの昼にクラス会
陵へ道つきあたるさくらかな
ゆく春や舷を打つ波のおと
菜飯食ふのに二階までとほされて
野遊びへそこらで買つて握り飯
葉桜や紙の箱からカツサンド
うす味に炊きあがりたる豆ごはん
賓客におほきなりボン青嵐
笹の葉につつまし山女蒸し上がる

青 梅

きくちきみえ

草餅を三個買ひたり余したり
店員の出てきて見上げ燕の巢
花びらと雨粒のある水溜まり
鍵の音させて帰る子花堇
春の風邪再放送のドラマ見て
桑の実の真下生ゴミ集積所
切り口に虹の生まるる初鰹
糠床に糠足してゐる夏始め
青梅の詰まつて固き袋かな
御旅所に円座の出来てゐたりけり

桐の花

大島英昭

土手上をくるま行きかふ花筵
キヤタピラの跡の凹凸母子草
やうやくに雲切れ始め郁子の花
蝶々に思はずついてゆくことに
春の野に丸たんぼうの崩えたるが
春深き朱塗の橋をわたりけり
空つぽの犬小屋桐の花咲いて
屋根に坐すぺこちやんポこちやん夏来たる
浮き雲の下の植田となりにけり
野良猫の道に寝てゐる夏あざみ

ががんぼ

藤井美晴

えごの花ちらほらえごの葉がひかり
野茨の花咲く坂を下りけり
山躑躅向きを変へゐる救急車
洋館は古りどくだみの花だらけ
緑陰の裸体の塑像午後に入る
暮れかけてなんじやもんじやの花を見に
ががんぼの飛び立つを待ち飽きにけり
真夜中の道の足裏の夏落葉
橋涼み膝をあらはに來りけり
道端のひるがほ軽き埃立ち

神輿

廣瀬雅男

ランドセル行く校門の八重桜
ベランダの鉢置き換へる夏隣り
真白なるまま白牡丹散りにけり
葉桜や小学校に鶏のこゑ
きしきしと矢車の鳴る夜の風
茄子苗の添へ木に雀来てゐたり
芥子坊主触れば固き頭かな
信号の赤に神輿の後じさり
酒を注ぐおたびどころの割烹着
良く晴れて街の八百屋に夏の蝶

賀茂祭

丑久保勲

出払つてゐる車両基地つばくらめ
シヨベルカーの土のほひや鳥雲に
墓地跡は拘置所管理八重桜
花水木長袖シャツを腰に巻き
大仏の後姿や山笑ふ
高台の貝塚跡や杉菜生ふ
参道に団子の匂ふ樟若葉
石楠花や賓頭盧に雨降りかかり
高みより飛び下るる夢明け易し
肩越しに背伸びして見る賀茂祭

昼の月

青谷小枝

鳥交るぽかんと昼の月ありて
囀りや丘の果てまで牧草地
房のまま落ちて乾びて八重桜
潮風やむくりむくりと楠若葉
花棟時々ぽつと雨の来て
溜池に水満ち朱萸の花は咲き
青葉寒古楽器を聴く絵画館
沢水を引く店先のラムネ水
川沿ひの縞の日除けのカフェオレ
Tシャツのハートのロゴに夏来る

花の雨

瀬島洒望

雲雀鳴くそこそこ広き貸し畑
霾曇る空を単発練習機
知事室の窓にカーテン花の雨
恋猫の深^{ふか}傷の手当てしたりけり
蝶飛んでをり釣り人のゐる辺り
経師屋に任かす表装荷風の忌
野茨をひとひら散らすほどの風
走り茶の茶殻座敷に撒きにけり
荷車が造り酒屋に棕櫚の花
下闇に防空壕の埋もれて

鳥ぐもり

渡邊孝彦

見覚えのある草ばかり春田道
うぐひすや山にほどよき風と日と
鳥の絵の巣箱に描かれ島の風
客船の船旗はためく鳥ぐもり
廃材の置場の塀や朝桜
広き田を種漬け花の一面に
移り行く雲に日のある夕桜
跳び箱は八段重ねチューリップ
戸袋に鳥影の入る楓若葉
すだれ早や駐輪場の受付に

燕 来 る

安藤久美子

浅草にメロンパン買ふ暮春かな
燕 来 る 千 住 大 橋 高 架 下
左見右見躑躅ばかりを茶席まで
公 園 の 遊 具 へ 流 れ 石 鹼 玉
折り鶴やかサブランカのかをる夜
遮断機の開くまで廻す白日傘
ほととぎす鳴き本尊は厨子の内
古書店の二階カレー屋走り梅雨
虫食ひの葉裏に午後後の蝸牛
更衣ハンドメイドのワンピース

◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(日)	PM2:00	15周年パーティ	浦和ワシントンホテル	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

7月5日(日)はやぶれ傘15周年パーティです。3時開宴。

8月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地は見沼。句会場は浦和パルコ10階の浦和コミセン第7集会室。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ